

アサヒ

第四選挙区支部会報紙

FRONTIER



6号



本誌は再生紙を使用しています。

転換期の日本を語る

「衛藤晟一」「栗本慎一郎」「安倍晋三」

第4回「政経セミナー」より(平成九年二月二十六日)

晋三後援会 政経セミナー



安倍

第四回目の「政経セミナー」を

開催させて頂きましたところ、お忙しい中、たくさんの方にご参加頂き、厚くお礼を申し上げます。

実は昨年、衛藤晟一先生、栗本慎一郎先生と一緒に、日本の今後進むべき道において、保守政治家が中心になって国づくりを進めていくべきではないかと意見が一致しました。そこで私たちの主張を表していこうと、本を一冊出版させて頂きました。そんなご縁で、きょうは衛藤先生、栗本先生にパネラーとしてご来会いただき、いろいろなお話をいた

だしながら、この会を進めていきたいと思えます。

まず、衛藤先生から、保守主義というのはどうあるべきか、また、我が国が今後進むべき道はどうあるべきか、お話を頂きたいと思えます。

衛藤

昨年、日本は今、明治維新、戦後の改革に次ぐ大変な転換期だけれども、転換の姿がはつきりしてこないことが問題だと議論してきました。これについて、私どもはこの転換期にあたって、今一度国ということ、国民ということ、そして文化ということも考えながら改革に取り組まなければならないのではないかと考えました。でなければ、この国はこのままとろけてしまうのではないかと考えたわけです。

私は今三期目ですが、私が出させていたいたのは平成二年で、政治改革議論が盛んなときでした。政治改革イコール選挙制度だということで、党内でものごとごい対立を起しながら議論をしてきま

profile

衛藤 晟一 (えとうせいいち)

昭和22年生まれ。大分大学卒。昭和48年大分市議会議員に25歳の最年少にて初当選。その後、大分県議会議員を経て、平成2年2月衆議院総選挙にて初当選。前自由民主党社会部会長。平成8年10月同選挙では、九州ブロックより3期目当選を果たし現在に至る。運輸政務次官、衆議院運輸委員会委員として活躍中。

栗本 慎一郎 (くりもとしんいちろう)

昭和16年生まれ。慶応大学経済学部、同大学院博士課程終了。元明治大学教授。後に自由大学創立。平成5年7月衆議院総選挙にて初当選(無所属)。自由連合を経て平成7年11月、自由民主党入党。平成8年10月、同選挙で東京都第3区より出馬し連続当選。衆議院決算委員会理事、党文教部会・財政部会各副部会長。都市派の代表として活躍中。

安倍 晋三 (あべしんぞう)

した。しかし、振り返ると、もともと国の中でやるべきことがあったのに、政治改革イコール選挙制度という議論ばかりやって、遅れてしまったのではないかとこの責任を感じています。

ちょうど明日、安倍先生、栗本先生、それから中川昭一先生が代表となって「日本の前途と戦後歴史教育を考える若手議員の会」がスタートします。安倍先生が実質的なリーダーで事務局長をされます。国がバラバラになっていくところから、例えば、夫婦別姓の問題、それから従軍慰安婦の教科書記述の問題、つまり教育の問題について、もう一回考え直さないといけないのではないかと考えています。

私も当時、自由民主党の社会部会長として、福祉、医療、年金の責任者をやっておりますので、従軍慰安婦問題の検

安倍



衛藤 晟一氏

討委員会のメンバーの一人として出させていただきましたが、そこにおける調査で、強制連行という事実は見つかりませんでした。従って、国として賠償するということにはならないけれども、当時の女性は大変辛かったでしょうから、道義的に国民の意思を集めて行なうことは、いいのではないかと思っています。それがいつの間にか、当時の日本軍が強制連行を行なったような教科書の書き方になっているのです。

このままいくと、私たちは日本人として、あるいは人間として、自信を持ってやっていけるのか疑問です。そしてまた、夫婦別姓ということを推し進めていってファミリーというもので壊してしまつたら、この社会は成り立って行くのだからかという心配をしています。

もう一つの心配は、改革、改革という議論の中で、国家ビジョンがハッキリしないために、国がとろけていくような状況を迎えているのではないかとこのこと

です。明治維新のときは、この国の独立を守りたい、植民地にならたくない、そのために近代化をしよう、工業化をしよう、中央集権化をしようということをやってきました。戦後は、豊かになりたいということいろいろなシステムを創ってきました。

ところが、昭和六十年を境にして、非常に豊かな国になったところで、目標をなくして右往左往しているのです。今は行革と規制緩和というふうに言われていますが、みんなが感情的にも一致してやれるような、国家ビジョンを打ち出すときではないかと考えています。

私たちは、周りの人々を幸せにするとか、周りの国々との関係を明らかにした上で、これからの国の方向性を考え、国家ビジョンを打ち出していくときが来たのではないかと思っています。それをもし明らかにすることができれば、ここにいる安倍晋三さんが私どものリーダーとして一躍、日本の政界を引っ張っていくことになると思います。安倍先生と一緒に一生懸命やらせていただいているところです。

安倍

私どもが本を書いたのは、昨年



の六月から八月にかけてでございまして、今、民主党の一方の代表を務めている鳩山由紀夫さんが、さきがけから出て、新しい党をつくるかどうか、そういう騒ぎのなかであります。新しい党のキーワードは「リベラル」でありまして、「これからの時代はリベラルである。リベラルを再結集していく」というのが合言葉であります。

私たちは、果してそうだろうか、リベラルというのはいろんな意味がありますが、いいところ取りをしているのではないかとこの気持ちもありました。歴史に対して静かな自信と矜持を持ち、未来に対して責任を持つ保守が中心になって、国づくりを進めていく時が今ではないかとお互いの気持ちをぶつけあつて本にしたわけです。

栗本先生は保守のイデオログとして、またスポークスマンとして活躍していただいています。特に教育問題についての造詣の深い方です。本の中でも、教育改革の進め方とか子供達への教育の仕方について書かれています。また、改革自体が目的のような錯覚に陥っているのが今日の日本の状況ですが、改革は何かの目的を達成するためであつて、どういう国家をつくっていくか、そのことが欠落しているのではないかとこの危惧も持っています。

そこで栗本先生に、今後の国家ビジョンについて、また教育改革をどうすすめる

ていくべきか、お話いただきたいと思ひます。

栗本

安倍先生とは期が同じ自由民主党の衆議院議員ですが、衛藤先生がおっしゃられましたように、近い将来、決して遠くない将来、安倍晋三さんを私どもが担いで安倍政権をつくって、日本の本道の保守再生の道を歩んでいく日が来ることを夢見ているわけです。

第四十一回総選挙の頃、その時の政界をめぐる話題は鳩山由紀夫さんが新党をつくる、つくりたくないということで、つくってほしいというマスコミのリードがあったかと思ひます。その中で、「リベラル」というのが、とてもいい言葉のように使われていました。学問的・政治的にリベラルという言葉は、自由主義という日本語の哲学の用語の原語であります。

これは何かというと、ヨーロッパの世から近世に至るまで、神学等を中心にして、これが権威だというのがあった時代に、その権威からは誰もが自由であり、それぞれが相手の立場を認めることによって、社会全体において思想の活性化が図られる、ということです。これには二つのポイントがあります。それぞれが自由であると同時に、相手の立場を認め、相手と交流、コミュニケーションをするということです。

話は飛びますが、従軍慰安婦の問題においても、慰安婦という存在は残念ながらあつたけれども、強制連行ということとは学問のレベルで確認されるものとはなかつたというのが定説です。

しかし、従軍慰安婦があつて、そのことが日本近代史の中心点だから教科書に記述せよと主張する人は、まさにリベラルな方だったと思います。しかし、ジャーナリストの櫻井よしこさんが「そういう事実はなかったんじゃないでしょうか」と言つた途端に、あちこちから講演を断られたそうです。要するに言論を封殺していく、相手の立場を封殺していく、これはリベリズムではないのですが、こういった方々がリベラルを言っているのです。

では、リベラルというのは一体、日本ではどう使われているのかと言いますと、新聞の出す方向によつて議論を変える人のことをリベラルと言っているようです。本当は違うのですが、大正時代のリベリストはそういう方々であつたと思います。

今、私たちが日本の国家の先行きを考える場合に、かつて黄金時代であつたアテネが、あしたから崩れるかもしれないという状況の中で、多くの人にはそれが見えないという時期に酷似しているように思います。当時のアテネでは、市民に苦いことを言う政治家を「貝殻追放」というので追放していきました。そして、東の台頭する新勢力ペルシャの前に破れ

去りました。それも自己崩壊という形で破れ去つたのです。その形に残念ながらよく似ています。

大衆の耳に心地よいこと、例えば税金は絶対上げませんとか、あなたのところでお世話している官僚制度は残しますが、全体は減らします。これはちやうど新進黨が、「消費税は上げません。十八兆円の減税をします」と言つたのと全く同じです。

それではどうするのかというと、官僚は悪として頭から叩くのではなく、官僚制度の骨格の部分は基本的に残しつつ、やたらに部屋が増えてしまつた古い旅館というと語弊がありますが、その柱を立て直していくことでしょう。一方的な規制緩和をやればよいというものではなく、行政改革にしても、一律に何割削減ということもある時期には必要でしょうが、官僚もきちんと生かした、小さい国家をつくっていくことだと考えます。

外交問題も今は肥大化して、竹島問題や尖閣諸島の問題も筋の通つた対応ができなくなつており、現場の人が適当に対応しているのです。こんなことでは本当にアテネになります。意志疎通がきちんとできる小さな国家に作りなおしていく作業を、安倍政権のもとで進めていくことを、将来の希望としています。

安倍

この四月からいよいよ新しい教科書が出るわけですが、そのすべての教科書に従軍慰安婦の記述が載ります。今、この言葉を我々は平気で使っていますが、果たしてその言葉は本当に昔

からあつたのかというと、栗本先生がおつしやつたように、それは正しくないわけです。

問題点は二つありまして、軍が組織的に強制連行に加わつていたかどうかでありますが、今のところ一つもその証明がされていないわけです。もちろん慰安所はありまして、中には悪い軍人もいました。しかし、軍として、国家としてそれを行つたという証拠はありません。それでは、なぜ日本だけが中学二年生の教科書にそのことを特記する必要があるのかという大きな疑問があります。教育というのは、自らの国に誇りが持てるような形がいいのではないかと考えています。

残念ながら、文部省というのは、決めた方針を一切変えようとしなない硬直した役所なので、若手の議員で運動しているというこのことになり「日本の前途と歴史教育の在り方について考える会」を発足させた次第です。

衛藤先生は以前、社会部会長を努めてこられました。社会部会は年金、医療、福祉などを扱うところでありまして、その中で介護保険法案等についてまとめてこられました。特に介護保険の問題については、これから家族で介護をするというところが、どう位置づけられていくのか、我々も不安を持つわけです。そこで衛藤先生に、今後社会保障はどうあるべきかお話いただきたいと思っています。

衛藤

この三年ぐらいの間に、医療、福祉、年金のあり方を大きく変えようとしています。

一つは、年金の改正をさせていただきました。これまで年金は六十歳からの支給で、平均寿命は七十歳と想定して、十年間支払えばいいということだったので、今は人生八十年で、二十年間払うということだと、財政がパンクします。そこで十六年後の二〇一三年から年金の支給年齢を六十五歳からにしました。

二つ目は高齢化問題で、これは「新ゴールドプラン」をつくり、地域でお年寄りを看やすい環境をつくります。また、病院や特別養護老人ホーム等を整備していきます。同時に、昨年の暮れ、介護保険制度の導入に関する法案を上程しました。倒れたとき、施設で看てもらふ以外に、地域でも面倒を看ましよう、あるいは在宅介護を支援しよう、ということを中心としてやりました。あとはお金の問題ですから、年金制度も充実してきたので、一割は自分で負担していただき、残りの半分は介護保険でやり、さらに残りの半分を国費で負担する、という制度を、平成十二年からスタートさせる予定です。

三つ目は医療制度の改革です。二年間続けて医療保険が赤字で、来年は政管健保だけでも八千億円の赤字になります。世界に冠たる国民皆保険制度がこのままでは破綻します。そこで、医療費の削減、自己負担の増加、保険料のアップ、この三つの改革を同時にやろうとしています。最後に少子化対策です。「エンゼルプラン」というのは、子供を産み、育てやすい環境をいかに政治がつくるかという



衆

栗本 慎一郎氏

ことで、働いている女性に一年間の育児休業制度を導入します。それから、今の公営住宅は平均二十坪ですが、十年間かけて三十坪にします。それと保育所で夜間保育、時間外保育をするのです。日本は出生率が一・四二で、イタリア、ドイツに次いで世界で三番目に低い率です。日本の人口は、このままいくと二〇五〇年に一億を切り、二〇八〇年には八千万を切ると言われています。人口が増える国は国力が増え、少ない国は落ちるとい

うのは世界の常識ですから、人口問題について深刻に考えなくてはなりません。その中において、菅さんや鳩山さんは「市民社会をつくらう」と言っています。市民社会というのは、山口市民、下関市民、ということではなく、個人が完全に独立しているほうがいいのだという考え方で、結局バラバラになってしまうのではないのでしょうか。

バラバラになったときに、子供の面倒は誰が看るのでしょうか。家族や家庭で看るわけです。子供が大怪我をしたり病気になるったら、お母さん、お父さん、兄弟が世話をするわけです。その基本的なところを忘れてしまったら、社会保障はあり得ないのです。ですから、菅さんたちのいう市民社会をつくるということも、問題があると思っています。個人の自立と同時に、家族や家庭があつてはじめて社会もあるという当たり前のことを、もう一回確認する必要があると思います。

市民社会の目標はより豊になることです。そして、自分自身が豊かになること

しか目標にできなかったら、この国はつぶれてしまいます。市民社会とかりべらると言われていることは、この国の将来に明るい光を示しているのではなく、むしろつぶれていく方向につながるのではないかと心配しています。

安倍

昭和二十二年ごろから二十五年までの団塊の世代は毎年二百七十八万人いるのですが、平成七年に産まれた子供の数は百二十万人で半分以上です。少ない人数が少ない子供しか生まないわけですから、ものすごいスピードで少子化になっていくということです。

他方、長寿社会を実現し、医療も大変進歩したのですが、医療費は毎年一兆四千億円増えて、現在は二十七、八兆円です。そのうち、七十歳以上の高齢者の方の医療費は八兆七千億円です。一ヶ月に千二十円しか自己負担していませんから、あまりかかっていないような気になりますが、七十歳以上のお年寄りには、平均五十数万円かかっていることになります。

先般、介護保険法案をつくりましたが、あくまでも家族が暖かい絆の中で助け合っていくことが必要です。そういう基本的な姿勢を持っていなければ、衛藤先生がおっしゃったように、この国はとろけていってしまうと思います。

特に法務省は民法を改正して、選択的な夫婦別姓、あるいは非嫡出子も嫡出子と同じ相続権を認めるべきではないか、という法律を考えているようです。そうなれば、家族という形態を持たなくてもいいという状況をつくっていくのではない

いか、という危機感も持っています。そういう社会情勢の中で、我々は家族の価値を見出し、地域ではしっかりしたコミュニケーションをつくりながら、国家というものをきちんと考えていける国をつくっていききたいと思っています。

栗本先生は文化人類学者でもありまして、我が国は将来、少子化、高齢化社会の中でどうなっていくのか、また、どうしていくべきかということも含めてお話ししていただきたいと思っています。

栗本

高齢化の問題は、それに対応していく様々な保障を考えるということしかないわけですが、少子化に関しては政治が大きな役割を果たせるのではないかと思います。ごく簡単にいえば、教育費が高騰して、都会で夫婦二人で子供を三人育てるといのは、一流企業に勤めているサラリーマンでも不可能です。子供三人が一つの部屋を持って受験勉強するということであれば、3LDKでは足りません。ですから、少子化対策に、政府は大きなお金を使っていくべきではないかと思っています。

今、共産党が、医療保険の改悪だということ国会にデモをかけています。私



安倍晋三氏

は、彼らからピラをもらうと、例えば、「老人医療費に八兆四千億円かかっています。そのうち税金で八兆円を払っています。九十五%以上が税金で、こんな国は社会主義国にもありません。これでもいいと思うのですか」と言うと、デモのリーダーは堂々と「いい」と言います。このままいくと医療保険制度は破綻しますが、共産党員はわかっているのでしょうか。

まとめますと、ご老人でも若い人でも、自己負担できる人は自己負担をするという原則に立つべきです。そして社会的・経済的に弱者の方々には給付金を出すのです。教科書も今は無料で配付していて、この額が四百数十億円です。文部省は、これがネックで大きな改革ができないという話です。これも含めて、原則として自己負担できる人は自己負担するという型に変えて行くべきだと思っています。

安倍

今年は、六十五歳以上の人口が千九百七十万人、十四歳以下の人口が千九百四十万人で、逆転をしました。また、今年は香港が中国に返還されます。列強のくびきからアジアが解放される年ではないかと思っています。そういう意味におきまして、これからどういう歴史観を持ち、今まで経験してこなかった社会に、どう挑戦していくのか、これが我々政治家の使命ではないかと思うわけです。

衛藤先生、栗本先生、活発なご意見を開陳していただきましてありがとうございます。これにて、政経セミナー第一部をお開きとさせていただきます。

(拍手)



子供達に

何を伝えるべきか

あべ晋二

民主主義が正しく機能する為には、言論の自由が保障されなければならないということ、自由主義国家においては常識と言えるでしょう。

本年1月29日に、三浦商工会議所が、櫻井よしこ氏を講師として招き、講演会を行う予定でしたが、社団法人神奈川人権センターより、櫻井氏の「従軍慰安婦」問題に関する発言は、けしからんから講師を変更しろという申し入れがあり、その圧力に屈する形で前日にキャンセルするという事件がありました。櫻井氏の発言というのは、昨年10月、横浜市教育委員会主催の講演会で「自分が取材した範囲では『従軍慰安婦の強制連行』を裏付ける事実はなかった。」との発言です。櫻井氏は、その後さらに様々ないやがらせを受け、講演会もいくつか中止せざるを得なくなったとのこと。私はこの事件を産経新聞と読売新聞の記事で知りました。(他の新聞はほとんど無視)

以前よりいわゆる『従軍慰安婦問題』が、今年から中学校のすべての教科書に登場することに問題意識を持っていたのですが、それを強引に押し進めてきた勢力が、ついに言論弾圧を堂々と始めた事に、政治家として危機感を抱きました。私の気持を何人かの同僚議

員に話したところ、今まで政治家としてこの問題を放置していたのは間違いだった、一緒に勉強し、真実を確かめ、そして行動しよう、と沢山の若手議員からの申し出がありました。歴史教育はどうあるべきか、特に中学校のすべての教科書に従軍慰安婦のことが記述されるのに対し、問題はないのか等について、勉強し、そして行動する会を「日本の前途と歴史教育を考える若手議員の会」として2月27日に当選5回以下の自民党若手議員60名で発足しました。代表は中川昭一氏、事務局長は私が務める事になりました。

4月までに勉強会を8回開催し、講師として明星大の高橋教授や東大の藤岡教授、従軍慰安婦記述をのせるべきという立場の吉見中央大教授、また韓国人作家の呉善花氏、文部省審議官、内閣外政室長、石原前官房副長官等多彩な人達をお招きし、お話をうかがいました。さらに資料等を検討した結果、次の様な結論を得ました。

一、軍、政府による強制連行の事実を示す資料は、2次にわたる政府調査、各民間団体の執拗な調査によっても、まったく発見されなかった。(調査の責任者であった石原副長官も明確に証言、吉見教授もその事は認めている) 二、従軍慰安婦騒動のきっかけを作った①吉

田清治氏の濟州島での慰安婦狩り証言(ニュースステーションやニュース23等TVに度々登場)とその著書と、それを紹介した朝日新聞の記事②朝日新聞の「女子挺身隊を慰安婦にした」との大々的報道、いずれもまったくのデッチあげであり、①については今や本人もデッチあげであった事をほぼ認めている。②については朝日新聞自体間違いであったことに気づき、今はそのことには触れていない。しかし従軍慰安婦について書かれた記事や著書、国連報告すら①②に依拠している。

三、河野官房長官が①②によって作られた日韓両国の雰囲気の中で、事実より外交上の問題を優先させ、軍による強制連行(この強制が無ければ当時の世界では特記すべきことではない)を認め、謝罪してしまい、子供達に伝えていくことを約束してしまった。

四、教科書採択権を持つ各地の教育委員会は、左翼的な教師に採択の実体をゆだねており、結果として、そうした教科書のみ学校で使われることになった。

私達はこの結論をもとに行動することにより、政治家としての責任を果たしていこうと考えています。強制連行を意味する従軍慰安婦の記述は、現在のところその事実を示す資料は無く、確定していない事実については当然教科書から削除すべきでしょう。歴史教育については、党内にも様々な説論がありますが、私は小学校、中学校の歴史教育のあるべき姿は、自身が生れた郷土と国家に、その文化と歴史に共感と、健全な自負を持てる歴史教育が望ましいと思います。ご意見をお寄せ戴ければ幸いです。

・(固い決意を胸に秘め、熱い思いを年頭に語る!)・



共に国政を担う林よしまさ参議院議員



ふるさとのためにもお願いします、と江島下関市長



年改まって心も新たに安倍晋三・昭恵夫妻



塚原俊平衆議院議員も遠路駆けつけて激励



しっかり聞いてしっかり実行—の二井山口県知事

二期目の議員生活に入り、
初心を忘れることなく
頑張ります。



長門・大津郡でも多くの支援者に囲まれる



安倍代議士バンザイ!



今年も威勢よく唐戸の初セリ



注がれるまなざしは温かく真摯



祝い気分充滿の下関青果市場



豊浦郡四町から励ましの顔、顔、顔……

雨の出陣式は前回と同じで幸先よし



凜とひびく拍手

憲法
を
守
り
た
社
会
を
建
て
直
し
ま
せ
う



初の小選挙区選の当選を目指して



雨にもかかわらず、こんなにも多くの人々が……

熱いよなぞし 温かい声援 再選への期待



声高らかにエイエイオー！



体に気をつけて頑張って下さいと握手攻め



明るい笑顔は励ましの笑顔



山積みされている福祉や医療問題をお願いします



代議士を再び国政へ送りましょう！



With SPIRIT!!を掲げて総決起大会へ



二井山口県知事も応援に駆けつけました

林よしまさ議員も車窓から身を乗り出して……

厳しく、
やさしく、
そして切なる願い



みんな揃ってガンパロウコール！



支援者の万歳に応える代議士夫妻の笑顔



二期目の当選を皆様に報告

第41回衆議院選挙山口県第四区得票一覧表

平成8年10月20日

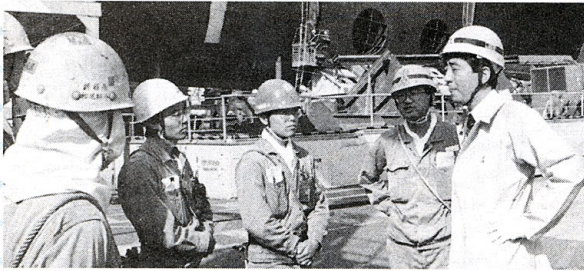
市町村名	有権者数	投票総数	投票率(%)	あ べ	古 賀	池之上	有効投票数	無効票
下関市	200,225	119,329	59.59	56,660	45,473	14,395	116,528	2,801
長門市	19,816	13,388	67.56	8,769	3,422	895	13,086	302
豊浦郡	菊川町	6,289	4,738	75.34	3,009	1,256	376	4,641
	豊田町	5,973	4,583	76.73	2,653	1,335	466	4,454
	豊浦町	17,133	12,003	70.06	6,763	3,638	1,434	11,834
	豊北町	11,857	8,770	73.96	5,646	2,221	693	8,560
	(計)	41,252	30,094	72.95	18,071	8,450	2,969	29,489
大津郡	三隅町	5,300	4,134	78.00	3,030	747	250	4,027
	日置町	3,767	3,008	79.85	2,226	531	169	2,926
	油谷町	7,639	6,089	79.71	4,703	1,053	175	5,931
	(計)	16,706	13,231	79.20	9,959	2,331	594	12,884
市 計	220,041	132,717	60.31	65,429	48,895	15,290	129,614	3,103
郡 計	57,958	43,325	74.75	28,030	10,781	3,562	42,373	952
四区計	277,999	176,042	63.32	93,459	59,676	18,853	171,987	4,055

ある日、
ある時。

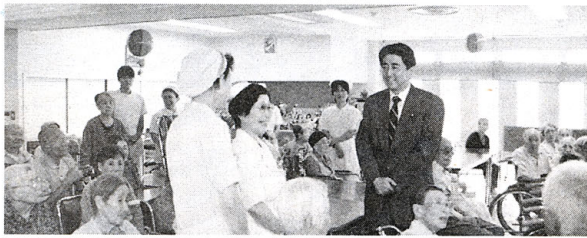
地域の声を国政へ、熱意と情熱を注ぎ続ける



二井せきなり県知事候補(当時)の出陣式にて



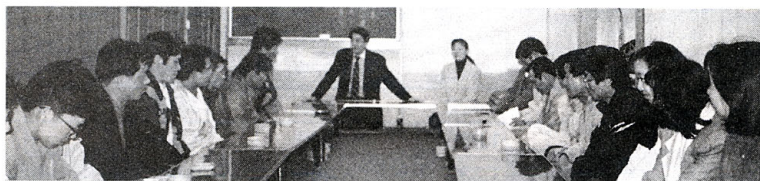
造船技師の方々と共に



施設の方々の声をお聴きする



安岡漁協の皆さんと



豊北町栗野の若者の集いにて



伊藤グループの皆さんと



下関市議会議員夫人の集いに林よしまさ夫人と参加した代議士夫妻



華やかな桂グループの皆さんと



第四選挙区幹事の皆さんと



長北局長会にて陳情に耳を傾ける代議士



神鋼特殊鋼管(株)スタートの鏡開きにて



農村の事情に耳を傾ける



21世紀を担う明るい園児たちと

・(今何をすべきかを大いに語り合う)・

上田中晋友会



青葉会



ある日、
ある時。

・（お願いします、景気回復、福祉政策、医療問題…）・



昇地・神谷・椎原グループ



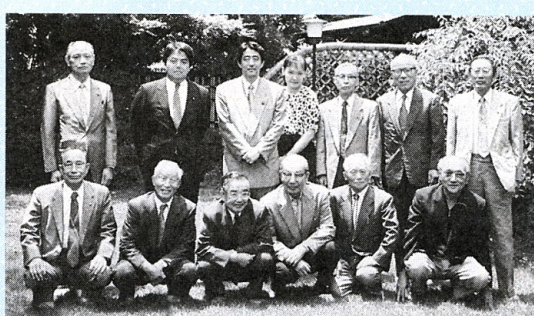
長府婦人部



・（介護問題等の実情にも真剣に耳を傾ける）・



吉田地区婦人部



特定郵便局長と夫人の集い



・(ふれあいを通じて心の交流を)・

藤附町敬老会の皆さんと



武久二町自治会敬老会の皆さんと



長崎中央町自治会敬老会の皆さんと



仙崎婦人部「ひまわり会」の皆さんと



豊浦町連合会「女性部幹部会」の皆さんと



菊川町後援会「女性部幹部会」の皆さんと



テクテクと、そしてハツラツと
「維新海峡ウォーク」に参加



夏の夜を踊って囃してヤトエノエー!



厚生委員会において、厳しく迫る代議士



佐藤道路局長に山陰自動車道について陳情する



当選2回生ではトップでの代表質問

滔滔と正論 真つ向勝負

一回りも二回りも大きく——中央での活躍



代議士の活躍と前進に乾杯!



森永社長夫妻を囲んで



掛布さんと安倍家「三本の矢」

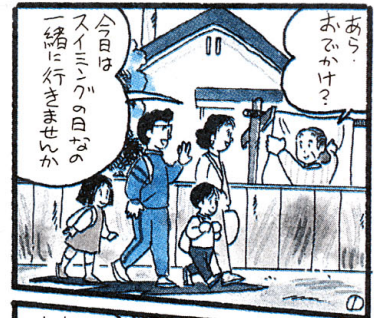
自民党青年議員訪中団に
青年局長として参加し、
胡錦濤中国共産党中央政
治局常務委員と会見する



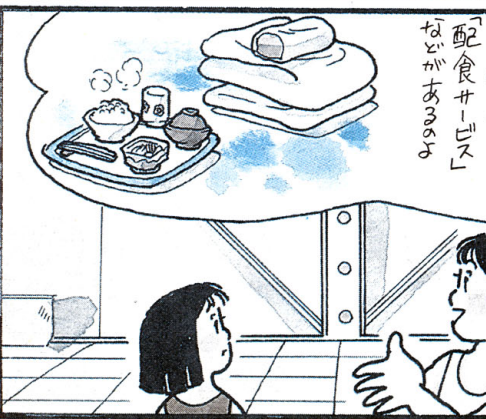
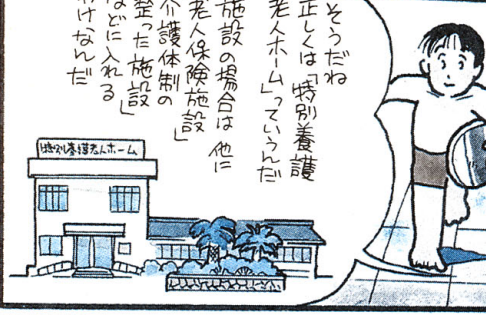
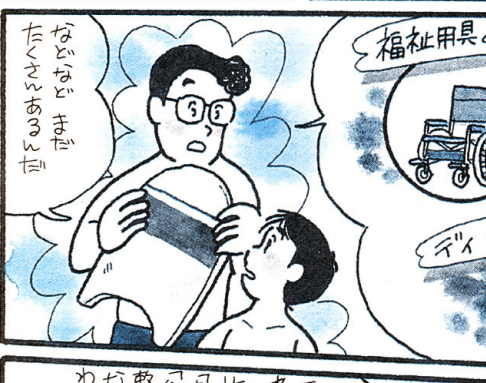
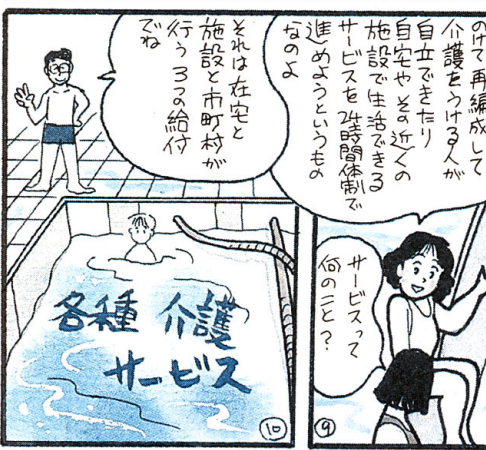
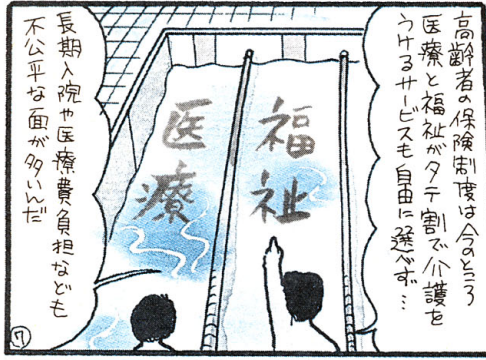
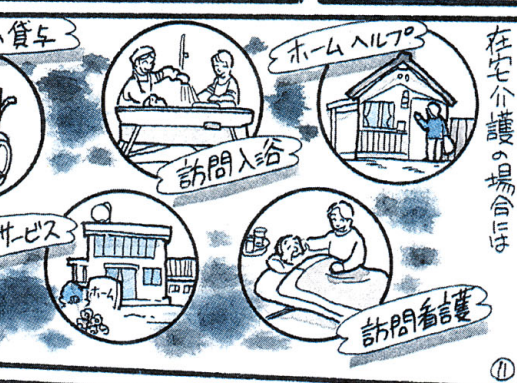
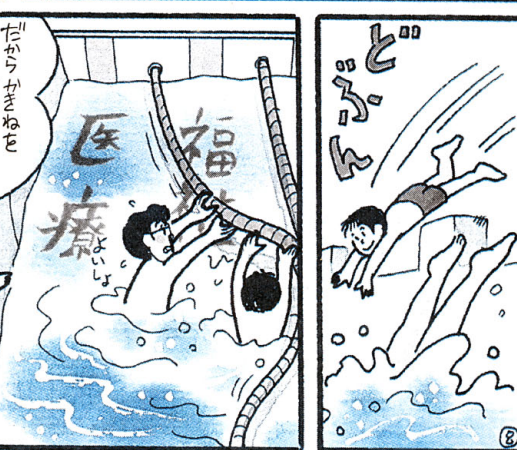
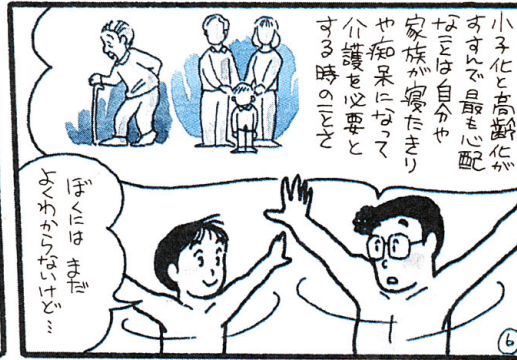
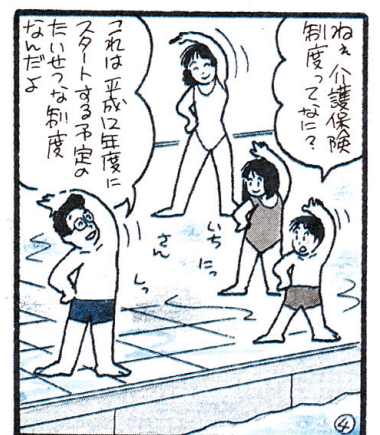
帰国後、総理へ報告をする代議士



NHK大河ドラマ『毛利元就』で主演を演じる中村橋之助さんと富田靖子さんと共に



がんばれしんちゃん！
第5回 介護保険制度ってなに？



あの町この町 読者の広場

易しい言葉と数字

下関市 自営業

今春、山口県下に福祉専門学校が2校開校、その一つ小月町の下関福祉専門学校の新校舎竣工式で、多くの来賓を代表して祝辞を述べられた安倍晋三先生のお話が心に残っています。

それは「65歳以上の高齢者が0歳から14歳までの人口より多くなった」ということです。そして「お年寄り」と若年層の人口比がついに逆転した」と言われたのち、詳しい数字をあげられました。

これは何でもないことかもしれませんが、やっかいな数字だけを並べたがる政治家が多い昨今、私にはとても新鮮に聞こえました。いや私だけでなく、新しい介護保険制度案に実感の持てない人びとにも「年齢人口の逆転」は確かな説得力となったようで、「だからこそ福祉のスペシャリストの養成が急務なんですなあ」などと、式典あとの懇親会でささやかれていました。

やさしい言葉で全体を語り、その上で裏付けとなる数字を述べる安倍晋三先生の温かさが、混迷をつづける日本を必ず救ってくれると、私は信じています。

そして、山口県に誕生した2つの福祉専門学校から立派な「介護福祉士」が、次々に養成され活躍されるよう心から祈っています。



このページに対する、ご意見・ご希望をお寄せください。多くの方のご投稿をお待ちしています。

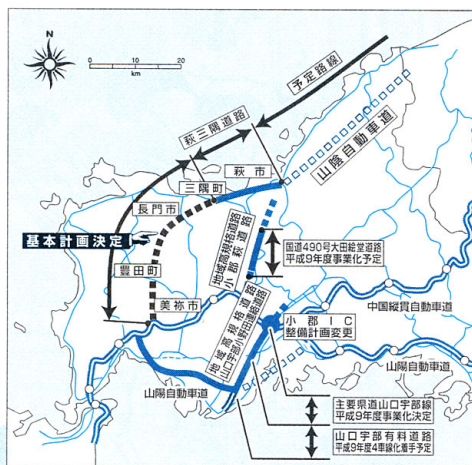




山陰自動車道 三隅—美祢間GOサイン

鳥取—美祢両市間を結ぶ待望の山陰自動車道（四一七キロ）について安倍代議士が東奔西走していることは『フロンティア5号』でもお知らせしましたが、その甲斐あって、山口県内の三隅町—美祢市間（延長三五キロ）が「予定路線」から「基本計画路線」へと格上げされました。

これは国土開発幹線自動車道建設審議会（国幹審）による着工へのゴーサイン、つまり「お墨付き」です。ちなみにこの区



間は標準四車線で、時速百キロまたは八〇キロが標準速度として考えられており、三隅町、長門市、豊田町を通じて美祢市の西部で中国自動車道と連結されます。

従って、これからは建設省により基本計画調査が進められ、①精度の高い具体的ルート②インターチェンジの位置③環境の変化および影響、などの検討を経て、次の国幹審で「整備計画路線」への格上げが審議されることになります。

また、山口県は独自にこの区間のルートやインターチェンジの検討、および調査に入りましたが、安倍代議士は豊北町、菊川町などからも山陰自動車道や、191号線バイパスにアクセスできるよう「県西北部振興」のために懸命に努力しています。

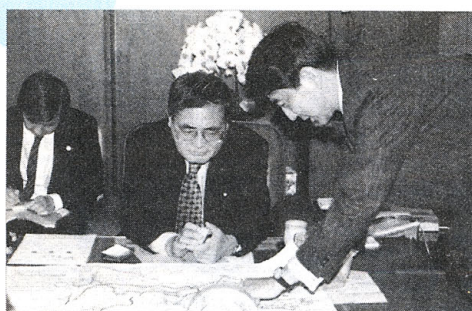
栗本慎一郎
安倍晋三
衛藤晟一 共著

「保守革命」宣言

—アンチリベラルへの選択—

維新の風雲児高杉晋作は父祖・家格・藩および藩主を重んじつつ、新しい日本建設のために敢て割拠し、一大改革の先頭に立って見事にそれをなした。

晋太郎・晋三と父子二代にわたり、その名に晋作の一字を受け継ぐ安倍代議士もまた、真摯な憂国の士として高く評価されてきた。その彼が栗本慎一郎、衛藤晟一という気鋭の両議士と共に筆を執り、そ



亀井建設大臣に陳情する代議士

して真剣に語り合って生まれた本書は、日本が大きな岐路に立ついま、実に時宜を得た出版だと広い層に亘って読まれている。

筆法や語り口は三者三様で、それでいて、いずれも易しく読みやすい。だが、そこには、日本民族が培ってきた素晴らしい文化を守りつづけ、更に発展させるために、何が大切で、今こそ何をすべきかが熱い思いで語られ、その矛（ほこ）先は、自戒をも込めて政党、官僚、マスコミ、選挙民へと歯に衣着せることなく展開、その切れ味が実に快い。ぜひご一読をお勧めしたい。現代書林刊（Y・T記）

